

事業報告書

第Ⅲ期（平成30年8月1日～令和元年7月31日）

一般社団法人ハビリスジャパン

第Ⅲ期（平成30年8月1日～令和元年7月31日）事業報告書

I 法人の概況

1. 設立年月日

平成28年8月1日

2. 定款に定める目的

当法人は、義肢を必要とする子ども達と、様々な障害がある子ども達の社会参加に関わる総合的な支援体制を確立することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 障害のある子どもたちの社会参加の支援事業
- (2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業
- (3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業
- (4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業
- (5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況

ハビリス会員 115 名、賛助会員 15 社、寄附 1 社/10 名

5. 主たる事務所の状況

主たる事務所：東京都中央区新富 2-5-10

6. 役員等に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	長野洋	非常勤	
理事	松井秀文	非常勤	
理事	上田啓子	非常勤	弁護士
理事	藤原清香	非常勤	医師
監事	北村浩志	非常勤	税理士
監事	福村圭一	非常勤	

7. 職員（常勤）に関する事項

職員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男子	0名	0名	—	—
女子	0名	0名	—	—

Ⅱ 事業の状況

1. 事業の実施状況

(1) 障害のある子どもたちの社会参加の支援事業

下記 PAFF イベントを計 6 回開催

- ① 平成 30 年 10 月 7 日: Habilis kids project 「第 5 回 PAFF 運動教室」
平成 31 年 3 月 21 日: Habilis kids project 「第 6 回 PAFF 運動教室」
(株)大泉スワロー体育クラブ協賛、三菱財団助成
手足に欠損のある子ども達を対象に運動指導専門員の指導のもと行なった。体力測定を行い、学校・幼稚園ではこれまで試みたことのない測定項目も体験した。また、補助を伴いながらのストレッチや跳び箱運動を行い、体を動かす経験ができた。
- ② 平成 30 年 12 月 9 日: 第二回キッズランニングスクール
(東京大学スポーツ先端科学研究拠点、オットーボック・ジャパン(株)共催、三菱財団助成)
手足に欠損のある子ども達とその家族を対象とした体力測定を実施、さらにパラリンピック陸上競技メダリストとのかけっこを行い、自分自身のからだのこと、使い方、運動の楽しさを学び、体験した。
- ③ 平成 31 年 2 月 16 日 : Habilis kids project 「こども料理教室」
(東京新橋ロータリークラブ・東京ガス(株) 協賛)
上肢に欠損のある子ども達を対象に料理教室のスタジオにて、調理スタッフのサポートのもと、作業療法士からの義手使用を促す指導を交えながら親子で料理を行った。
- ④ 令和元年 5 月 3 日: Habilis kids project 「長居であそぼ! KIDS ミーティング 2019」
(川村義肢(株)、大阪市長居障がい者スポーツセンター協賛、三菱財団助成)
長居スポーツセンターの運動指導専門員の指導のもと体育室で体力測定および運動会を行った。成人の義手・義足使用者も子ども達と一緒に全力で各種目に取り組んだ。
- ⑤ 令和元年 6 月 24 日: Habilis kids project 「みんなでキッズニアに行こう!2019」
(キッズニア東京、東京新橋ロータリークラブ協賛)
欠損の子どもを対象として、作業療法士や義肢装具士など医療専門職のサポートのもと、職業体験を行った。

(2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業

① 教育セミナー開催

イ) 令和元年 6 月 22 日

: 両側上肢障害を考える 第1回 Skills for Life Japan

両上肢障害の成人および子ども達、そのご家族、そして関わる専門職を対象に開催した。第一部は Skills for Life Japan についての紹介、第二部はグループに分かれ直接ディスカッション形式での情報交換の場を設けた。

② 専用サイト運用

イベントで得られた知見を、専用サイトを通じて広く発信した。アクセス数は約 3300 に達している。

[専用サイトアドレス (<http://habilisjapan.com/habilisjapan>)]

③ ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の専用アカウントによる情報発信

Facebook、Twitter、ならびに YouTube の専用アカウントを取得し、イベントで得られた情報を発信することにより、専用サイトへの誘引を行った。

④ マスメディアを通じた情報発信

本年はガスエネ新聞による当法人活動への取材と紹介があった。

(3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

① イベントを通じたアンケート結果とデータ分析・地方開催の実現

今年度前半に 2 年間の三菱財団助成による社会福祉事業・研究を総括するため、データの整理と分析を行った。また、イベントの際のアンケート結果とイベントでの子供たちの活動を通し、アクティビティ義肢のニーズの高いことがわかった。

課題名「上肢欠損小児の運動用義手のニーズと有効性に関する研究および総合的な普及支援」

② Medtec イノベーション大賞受賞

平成 31 年 3 月 16 日に日本国内最大の医療機器展示会 MEDTEC における、Medtec イノベーション大賞を当法人が代表で受賞した。当法人事業の中で開発したアクティビティ義手手先具 2 点の開発と製品化までのプロセスに対しての受賞となった。

(4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

これまで貸与事業を行ってきた TRS 社の Shroom Tumbler に加え、小児用のマット運動用 Tamtam・跳び箱用 Hamo という義手手先具を 2 回に分けてそれぞれ計 10 点購入し、貸与事業を開始した。現在 Shroom7 名 Tamtam1 名 Hamo1 名の手先具貸与を実施している(令和元年 7 月末現在)。

(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

① 会員、寄付者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知していただくために、ハビリス会員、賛助会員、寄附者の募集を行った。第Ⅲ期はハビリス会員 115 名、賛助会員 15 社となった。寄附者は 1 社/10 名であった。

② ネットワーク体制の構築

大阪の大阪市長居障がい者スポーツセンター、大阪市舞洲障がい者スポーツセンター、川村義肢社との連携に加え、新たに福井大学および琉球大学と連携し、第Ⅳ期に福井県および沖縄県での PAFF イベント開催を予定している。

③ 物販の企画

未実施

④ その他

公益財団法人三菱財団の平成 29 年度助成金社会福祉を申請し、平成 30 年度～令和元年度の 2 年間合計助成金 5,300,000 円を得ている

主な事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
障害のある子どもたちの社会参加の支援事業	運動教室(5) キッズランニングスクール(2) こども料理教室(3) 運動教室(6) 長居であそぼ！(2) みんなでキッズニアに行こう！(2)	平成30年10月 12月 平成31年2月 3月 令和元年5月 6月	大泉スワロー体操クラブ 東京大学 東京ガス 大泉スワロー体操クラブ 長居スポーツセンター キッズニア東京
リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業	両側上肢障害を考える Skills for Life Japan HP と Facebook 上での上記イベントの報告書作成と掲載	(セミナー) 令和元年6月 (報告書) 随時	(セミナー) 東京大学医学部附属病院 (報告書) 当法人 HP/Facebook
小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業	PAFF イベントでのアンケート	平成30年10月 12月 平成31年3月 令和元年5月	大泉スワロー体操クラブ 東京大学 大泉スワロー体操クラブ 長居スポーツセンター
小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業	TRS 社 Shroom Tumbler/ 今仙義肢社 Tamtam・Hamo の個人への貸与事業	随時	随時

その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	法人のホームページ作成 フライヤー作成・会報発行等による広報活動	随時	法人事務所

2. 重要な契約に関する事項

該当事項なし

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会・社員総会について

実施年月日

平成30年10月15日	第10回	理事会
平成30年10月30日	第6回	社員総会
平成30年10月30日	第11回	理事会
平成31年2月18日	第12回	理事会
令和元年7月22日	第13回	理事会
令和元年7月31日	第7回	社員総会

(2) 専門部会について

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
専門部会長	大西謙吾	非常勤	大学教員（工学）

①活動内容

- ・ 承認された専門部会委員に、委嘱状を事務局より送付した。
- ・ 体力測定とアンケートを運動イベントで実施し、測定結果の分析を進めた。

②令和元年度活動予定

- ・ 体力測定とアンケートを運動イベントで実施し、結果の統計分析を行う。
- ・ 専門部会を開き、体力測定とアンケートの結果・分析の報告と、体力の評価と、体力向上に向けた方針の議論を行う。

4. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産の状態の推移

単位：円

事業年度	令和元年7月期
正味財産収益合計	4,795,140
正味財産費用合計	2,134,045
正味財産増減額	2,661,095
資産合計	6,447,573
負債合計	108,000
正味財産	6,339,573

Ⅲ 法人の課題

三菱財団からの助成金を活用して義肢を必要とする子ども達と様々な障害がある子ども達の社会参加に関わる総合的な支援事業を今後も継続する方針である。将来的に助成金がなくても本法人の維持運営体制が保持できるような、財政基盤の確立が必要である。

Ⅳ 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

なし

第Ⅲ期(平成30年8月1日～令和元年7月31日)事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が
存在しないので作成しない